

地域文化祭の開催・作品募集

日ごろの活動の成果であるご自慢の作品・一芸を文化祭で発表しませんか。

出展点数は作品内容によって異なりますので、各地域公民館へお問い合わせください。

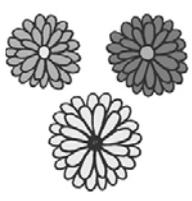
また、文化祭に出展された作品の中から、令和3年3月開催予定の「安曇野市総合芸術展」の出展作品が選ばれます。皆さんの出展をお待ちしています。 ※日程は予定（全地域）

豊科 問い合わせ先：豊科公民館 (TEL72-2158 FAX73-6401)

募集内容	絵画・水墨画・書道・写真・彫刻・彫塑・工芸・菊花など		
申込み期限	9月18日(金)	申込み方法	豊科公民館窓口で所定の用紙に記入
展示日程 (展示場所)	美術・一般作品 (豊科公民館) 展 示：11月6日(金)～8日(日) 午前9時～午後5時 ※8日(日)は午後3時まで 搬 入：11月5日(木)午前9時～ 片付け：11月8日(日)午後3時～		菊花展 (豊科交流学習センター「きぼう」 回廊中庭) 展 示：10月29日(木)～11月1日(日) 午前9時～午後4時 搬 入：10月28日(水)午後1時30分～ 片付け：11月2日(月)午前8時30分～
ピアノリレー コンサート (開催場所)	ピアノリレーコンサート (豊科公民館大ホール) 開催日時：11月7日(土) 午後1時～3時 演奏者募集(高校生以上)先着20人 ※申込みは9月16日から10月7日までの間に公民館へ		華道展・書道展 (豊科交流学習センター「きぼう」) 展 示：10月31日(土)～11月1日(日) 午前9時～午後5時 ※11月1日(日)は午後3時まで 短歌大会 (豊科公民館 大会議室) 開催日：11月14日(土) 俳句大会 (豊科公民館 大会議室) 開催日：11月15日(日)

※芸能発表会・お茶会は中止いたします。

三郷 問い合わせ先：三郷公民館 (TEL77-2109 FAX77-6060)

募集内容	盆栽・山野草・木彫石彫・生花・絵画・彫刻・彫塑・手工芸・短歌俳句・和洋裁・写真・絵画・書道・菊花など		
申込み期限	8月31日(月)※地域回覧で周知済み	申込み方法	三郷公民館窓口で所定の用紙に記入
- 展示日程 (展示場所)	文化産業展 (三郷公民館) 展 示：10月10日(土) 午後1時～7時 11日(日) 午前9時～午後3時 搬 入：10月10日(土) 午前9時～10時 片付け：10月11日(日) 午後3時～4時		 菊花展 (三郷公民館ロビー) 展 示 11月2日(月)～7日(土) 午前9時～午後9時 ※7日(土)は午後3時まで 搬 入：11月2日(月) 午前9時～10時 片付け：11月7日(土) 午後3時～4時

※ふれあいコンサート、芸能発表会は中止いたします。

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.56 2020.9.2
TEL71-2466



堀金

問い合わせ先：堀金公民館 (TEL72-5796 FAX72-4900)

募集内容	菊花・盆栽・書道・写真・絵画・彫刻・彫塑・水墨画・手芸・生花・フラワーアレンジメントなど		
申込み期限	個人で出品される方 10月10日(土)	申込み方法	堀金公民館窓口で所定の用紙に記入
展示日程 (展示場所)	作品展示(堀金総合体育館メインアリーナ) 展示：10月30日(金)～11月1日(日) 午前9時～午後8時 ※11月1日(日)は午後4時まで 搬入：10月29日(木)午前9時～午後5時 片付け：11月1日(日)午後4時～5時		

※芸能祭・堀金一周駅伝大会は中止いたします。

明科

問い合わせ先：明科公民館 (TEL62-4605 FAX62-5894)

募集内容	書道・水墨画・絵画・写真・彫刻・彫塑・陶芸・和洋裁・手芸・織物・押花・押絵・生花・菊花・盆栽・俳句短歌・学習発表など		
申込み期限	9月30日(水)	申込み方法	明科公民館窓口で所定の用紙に記入
展示日程 (展示場所)	作品展示(明科公民館) 展示：10月31日(土)～11月1日(日) 午前9時～午後5時 ※11月1日(日)は午後3時まで 搬入：10月30日(金)午前9時～ 片付け：11月1日(日)午後3時～	 ステージ発表 (開催場所)	お楽しみサロン(明科公民館講堂) 10月31日(土)午前10時～午後3時 晩秋コンサート(明科公民館講堂) 11月1日(日)午後1時～3時

※芸能発表会は中止いたします。

※穂高地域文化祭については、穂高文化協会理事会で検討した結果、中止いたします。

問い合わせ先：穂高公民館 (TEL82-5970)

新型コロナウイルスの感染状況により、文化祭の開催が中止となったり、内容が変更となったりする場合がありますので、ご留意ください。また、地域文化祭来場に際しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため基本的な感染症対策についてご協力をお願いいたします。

- ・マスクを着用するなど咳エチケットに配慮し、飛沫拡散防止に努めましょう。
- ・手洗い又は手指の消毒をしましょう。 ・発熱や風邪の症状がある方は、来場を自粛しましょう。
- ・作品鑑賞中は、人と人との間隔を空け、向かい合っでの会話は避けましょう。



左から、塚原地区公民館長 浅川義明さん、牧地区公民館長 田中吉弘さん、豊里地区公民館長 高山公明さん、元新田地区公民館長 太田清秋さん

▼地区公民館報受賞
 最優秀賞 豊里地区公民館
 優秀賞 牧地区公民館
 塚原地区公民館

▼公民館活動推進功労者
 元新田地区公民館長 太田清秋さん

公民館活動推進功労者表彰と地区公民館報表彰は安曇野市公民館大会で行われる予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止となったため、7月27日に市役所3階の会議室で行われた。表彰後、これまでの活動を通しての思い出やコロナ禍での地区公民館活動の難しさなどについて語られた。受賞者及び受賞した公民館は次のとおり。

公民館活動推進功労者表彰
 地区公民館報表彰

地区公民館だより

田多井地区公民館(堀金)

田多井地区は堀金の西山山麓にあり、堀金地域では最も早く人が住み着いた歴史のある地区で、約八千年前の生活跡が残っており、縄文時代の土器も拾われている。現在、高齢化率は36パーセント台だが、その高齢者の多くが生産者であり、毎日、田畑に出かけては野菜や果物の手入れをしている農村地区である。

毎年、球技大会や納涼祭、公民館旅行などを開催し区民の親睦を図っている。近年は子どもを対象とした人形劇や絵手紙、手芸の講習会、歴史を学ぶ会なども開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため地区公民館活動がほとんど出来ていない状況である。そこで今回は、昨年度、公民館として取り組んだ活動の一つを紹介したいと思う。

田多井地区のほぼ中央に観音堂(福聚山観音寺)がある。この観音堂の看板と案内板が長い年月の風雪・風雨のため見るも無残な形となり、何とかしなくてはならない状況となった。区には観音堂世話人会があるが祭典や管理のための予算しか無いため、公民館役員が中心となって看板と案内板を新しくする有志会を結成した。観音堂は市指定文化財ではないため、



市からの援助は難しいと思われた。しかし会のお願いが届き、案内板は市が作成してくれることとなり、今年3月に市によって新しい案内板が取り付けられた。看板も玄蕃稻荷神社の宮澤神主に書いていただけることとなり、有志会が看板を取り替えた。

この観音堂については、地元の郷土史研究家故猿田哲明氏が昭和42(1967)年9月の堀金村公民館報で詳しく紹介している。観音堂は観音寺の脇に建てられたが、明治初年、廃仏毀釈の波で観音寺は壊されてしまい、現在のお堂のみが残った。観音寺は祈願寺として創設されたと考えられるということ、観音堂は地区の貴重な財産であることを再確認した。



観音堂前には大きなシダレザクラがある。毎年、桜の時期には多くの写真マニアが訪れるこの観音堂を後世に伝えていくのも公民館の役割だと思ふ。

(前田多井地区公民館長 鶴見宏)
(田多井地区公民館長 猿田典宏)

グループ紹介

あづみの鼓友会(穂高)



「あづみの鼓友会」は、平成20(2008)年の春、穂高地域を拠点とした和太鼓好きの仲間が集まってできた和太鼓サークルで、今年で結成13年目になる。会員の太鼓歴は0〜33年、年齢は6〜63歳で、性別も居住地域もさまざまな14人で活動中だ。

5月に国営アルプスあづみの公園で開催されるあづみの公園早春賦音楽祭や穂高地域の納涼祭や文化祭、新屋の諏訪神社や穂高神社のお祭りなどで演奏させていただいている。結成10年目の春、偶然に知り合った津軽三味線のグループと意気投合してコラボレーションを試みたところ好評を得て、最近活動範囲が広がり、松本市内商店街の催しや信州花フェスタ、山形村の介護老人保健施設での敬老会などでも演奏をしている。ところで太鼓って叩くのでしょうか、打つのでしょうか？

私たちの会は、昨今のプロのように派手なパフォーマンスは無く地味だが「昔からのお祭りや盆踊りの太鼓のように、日本人の魂に響くよう力を込めて打つべし！太鼓は叩くんじゃなくて間違えても良いから一生懸命打つべし！魂に届き何かを感じてもらえるように打つべし！」をモットーに演奏している。

堀金公民館で、毎週土曜日の午後7時から9時まで楽しく、時に厳しく練習している。津軽三味線との合同練習は不定期だが、お互いに都合の合う日曜の午前中に集中して3時間練習している。どちらの練習も公開しているので、会に興味を持たれたら、都合の良い時に気軽に遊びに来て下さい。地域・性別・年齢・経験などの制限はありません。お待ちしています。



三味線とコラボ (ほたか芸能まつり)

問い合わせ先
代表 中村 徹
(日本太鼓財団公認指導員)
090・8326・5983

私は一生懸命



丸山 たくし 城さん(豊科)

取材に伺った時、丸山さんは懸崖菊の手入れの作業中であつた。手作りのビニールハウスの中には大輪菊用60鉢分の苗が定植を待たばかりとなつていた。菊を作り始めて40年が経つてゐる。子どものころから花に興味があり、友達と花の苗を交換しあい大事に育てることが楽しかつたそうだ。

丸山さんいわく、菊作りの基本はなにをいっても土作りだ。うだ。そのために晩秋に落葉を集め、庭に大きな穴を掘り2年かけて熟成させて腐葉土を作つてゐる。また、使う前にバーナーで火を通し燻蒸したり、燻炭をつくつたりもする。ホームセンターなどでも菊づくりの土は簡単に手に入るが、自分で腐葉土を作り菊にあつた土づくりをすることにこだわりを持っている。土だけでなく、ビニールハウス、日照の調節をするシェード、苗箱など菊作りのためのほ

とんどの物が自分で使いやすいように工夫をして作つてあり驚いた。また、根をしつかり張らせるためには、水をやりすぎないことが大切だそうで、これも長年の経験から試行錯誤しながら得たコツだそうだ。いろいろな苗を取り寄せ、3年間育ててみて自分の育て方に合うかどうか試し、今は30種ほどを育てている。

豊科公民館主催の菊花展に育てた菊を出品し、10年くらい前から最優秀賞を受賞するようになった。受賞までには、豊科地域の菊作り先進地「光菊花クラブ」に出向き見学させてもらつたり、教えるを請うたりして「光菊花クラブに追いつき追い越せ」を目標に工夫した。何度も読み返し基本の知識を得たという『図解 初歩の菊作り』を見せていただいたが、年季が入つた本だつた。

取材中「菊づくりは、一生の趣味だね」「菊と話ができるね」ときさらりと目を輝かせて情熱的に話してくださつた。我が子を育てるように菊に愛情を注ぎ、丁寧に世話をしている様子を実際に見せていただき、素晴らしい菊が育つはずだと納得した。

自宅の庭の樹木や花壇も手入れが行き届き、植物全般に愛情を注がれていることがうかがえた。



秋には小菊の花が咲き誇る懸崖菊

古きを尋ねて

③7 多田加助の墓と屋敷跡

貞享3(1686)年に発生した百姓一揆「貞享騒動」の首領であつた多田加助の墓は、貞享義民社の北隣の多田家の墓地にある。

加助の享年は48歳。墓碑の表面には「悟雪承頓居士」の戒名が刻まれている。意味は「雪のような身の潔白、頓かの死を承けられた居士」と伝えられている。また、墓石の側面左には「貞享三丙寅十一月廿二日 多田嘉助安土墓」とある。「安土墓」とは、後年に供養のために建てた墓の意である。さらに、側面右には「享保十乙巳 十二月十日 風屋妙寒大姉」と刻まれている。加助の妻お民の戒名である。この墓石は御影石でつくられていて、四方の角が丸く欠けている。これは、人々からこの墓石を粉にして田にまくと豊作になるとか、お守りにすると病気が治るとか信じられ、削つて持ち去られたためであるという。

加助の墓の隣には、加助と同じ時に処刑された加助の子「伝八(12歳)」と「三蔵(10歳)」、加助の弟「彦之丞」の墓がある。



屋敷跡は、貞享義民社西隣にあり、幅約6メートルほどの堀の一部分と堀端の木々でわずかに当時の面影をしのぶことができる。



多田住宅は、東西30間(約54メートル)、南北35間(約63メートル)。四方に堀を巡らし、堀の内外には土手が築かれていたという。慶安4(1651)年の検地帳によれば、「屋敷四畝廿歩」(約462平方メートル)という記録が残る。また、江戸末期の絵地図には、宅地東の現貞享義民社本殿辺りに「郷蔵屋敷」が描かれ、年貢蔵が建てられていたようだ。この規模と造りからして、加助の家は中世以来の土豪(土地の豪族)の系譜をひくことが想像できる。この屋敷多田加助宅跡は、昭和35(1960)年に長野県史跡に指定され、大切な文化財となっている。

櫻

東京五輪が延期された。さまざまな全国大会が中止され各地の予選会も消滅したが、市中学校体育大会は規模を縮小しながらも開催することができた。予期せぬ出来事の前に、大人は子どもの未来に光を与えられるだろうか。(T・Y)